

エコプロ展来訪者と学生、保護者へのアンケートの比較結果

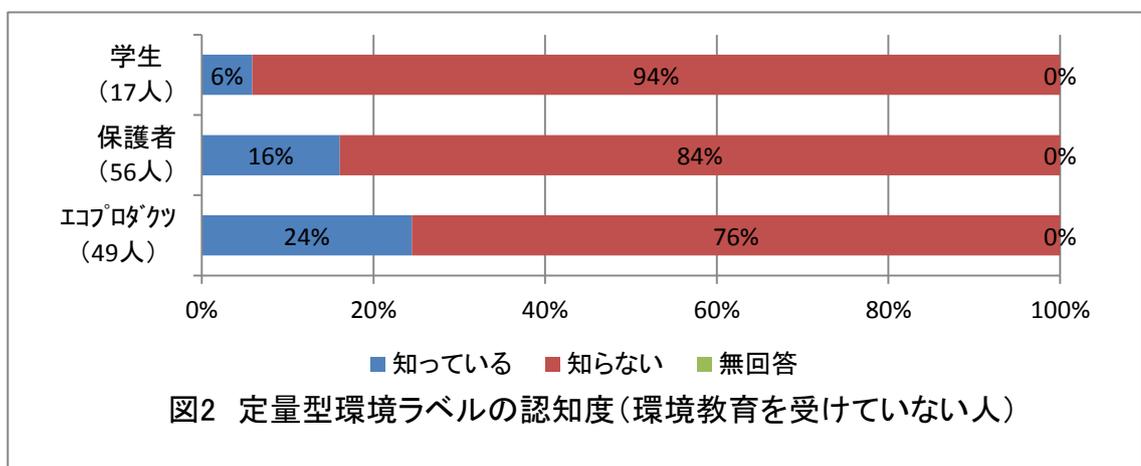
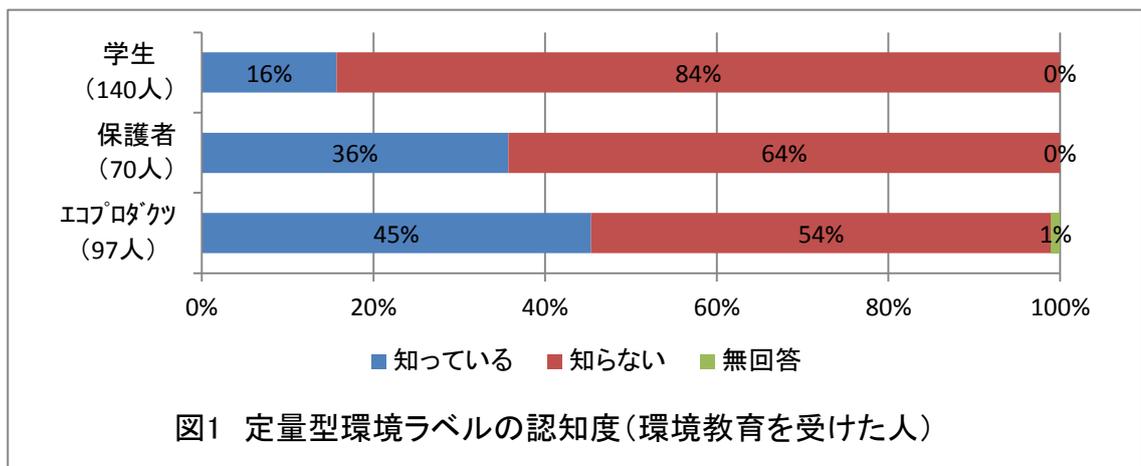
1. 消費者アンケート実施方法

2013年12月のエコプロダクツ展において、ブース来場者(146名)を対象にアンケートを行った。また、山口委員のご協力で学生(157名)とその保護者(128名)にもアンケートが実施できた。

事業者ヒアリングで多くの事業者が指摘した消費者のラベルに対する理解度について、環境教育との関係を、何らかの環境教育を受けた307人(学生140人、保護者70人、エコプロダクツ展97人)と環境教育を受けていない122人(学生17人、保護者56人、エコプロダクツ展49人)とに分け、各々が定量型環境ラベルの理解度の違いを分析した。

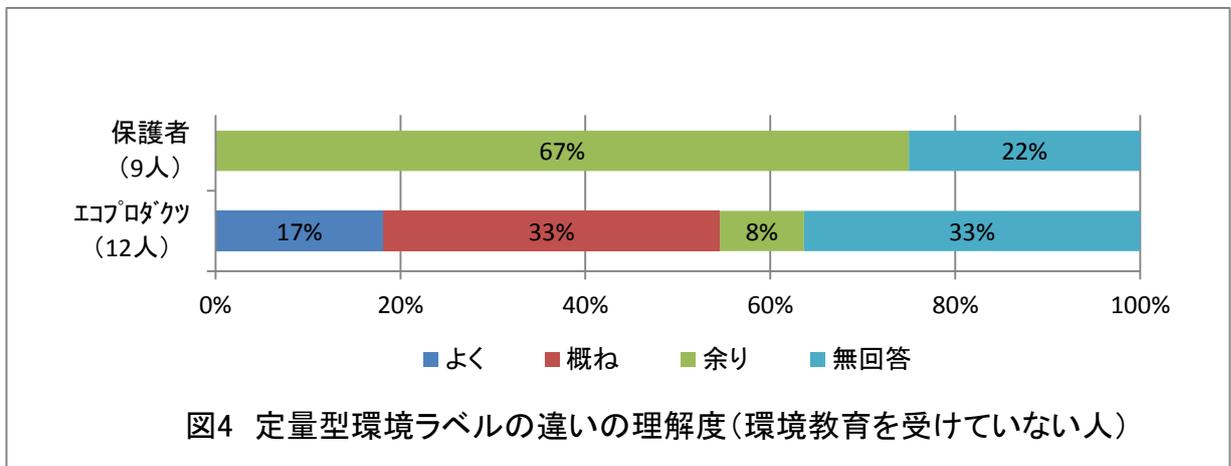
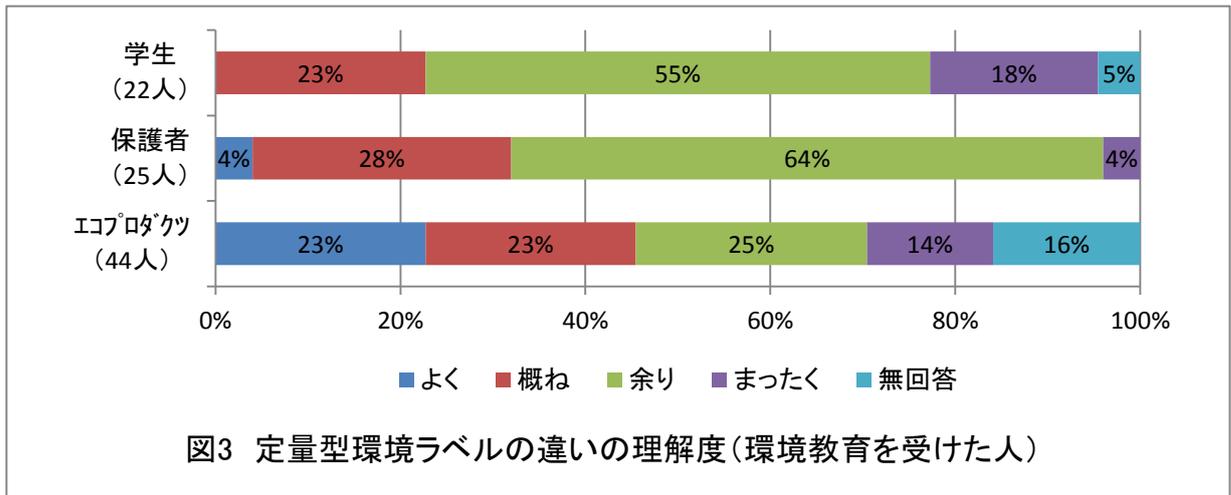
2. 定量型環境ラベルの認知度

定量型環境ラベルを知っているかという質問に対し、知っていると応えた人の割合は、環境教育を受けた人では、学生16%、保護者36%、エコプロダクツ展45%に対して、環境教育を受けていない人では、学生6%、保護者16%、エコプロダクツ展24%となり、顕著な差が出た。



3. タイプⅠ環境ラベルとタイプⅢ環境ラベルの違い

タイプⅠ環境ラベルとタイプⅢ環境ラベルの違いを理解しているかという質問に対して、環境教育を受けた人は（学生23%、保護者32%、エコプロダクツ展46%）環境教育を受けていない人は（学生0%、保護者0%、エコプロダクツ展50%）と、学生・保護者では環境教育を受けた人は、受けていない人より環境ラベルの認識度も高い。データ数が少ないが、エコプロダクツ展来場者は環境教育の受講有無に関係なく、約半数の人がタイプⅠとタイプⅢの違いを理解されている。



以上の結果から、これまでに環境教育を受けた経験の有無により、定量型環境ラベルを含む環境ラベルについての理解度差が認められ、環境教育が環境ラベル理解促進の手段として有効に働くことが期待出来ると考えられる。

4. 多様な環境ラベルの存在

多様な環境ラベルの存在について、様々な情報を商品選択に利用できるのが良い事であるといった人は、図5に示すように

「商品を増やしていく」が最も学生・保護者・エコプロダクツ展来場者ともに一番多くなった。

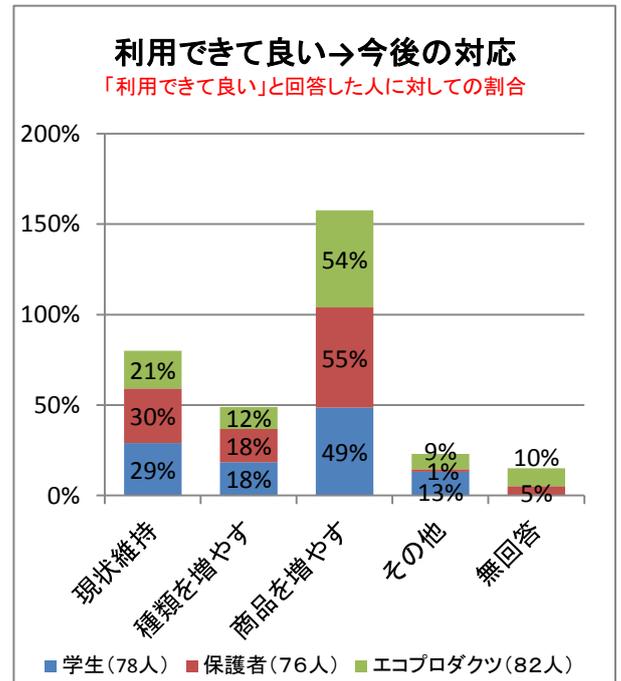


図5 利用できて良いと言った人の今後の対応

環境ラベルの種類が多すぎて理解できないと言っている人は、今後、類似ラベルを整理統合することで消費者に分かり易いものに変えていく割合が最も高い。

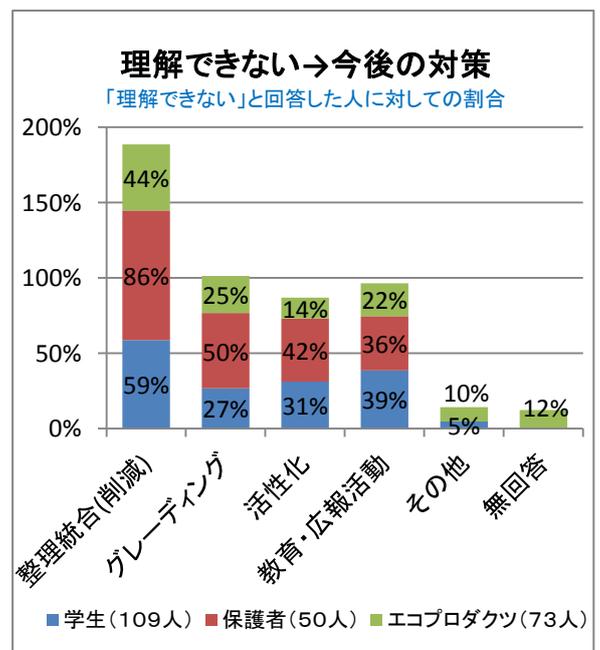


図6 環境ラベルの種類が多すぎて理解できない人の今後の対応

以上より、学生・保護者・エコプロダクツ展来場者ともに、今後の対応として商品数を増やす事、整理統合を進めることが重要である。